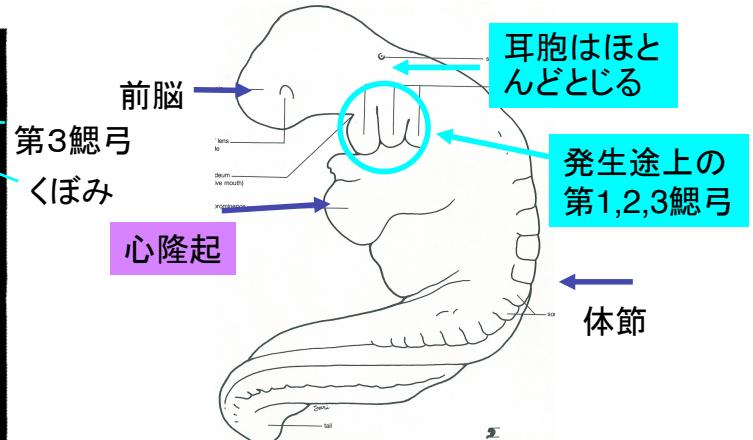
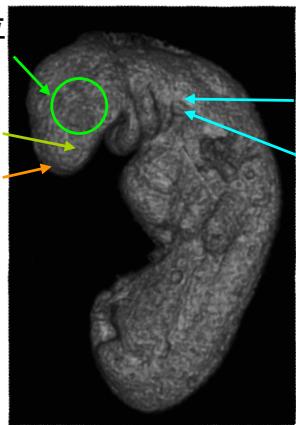


CS12

眼胞と推測される位置
窪み・隆起なし
上顎隆起が
発達する部分
鼻板が発達
する部分

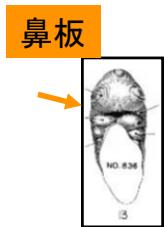


鼻板(鼻の原基)、上顎隆起、眼胞隆起は確認できない

上肢芽しか確認できない

耳胞はほとんどとじる
第3鰓弓が発生途上で小さく見える。くぼみはある。

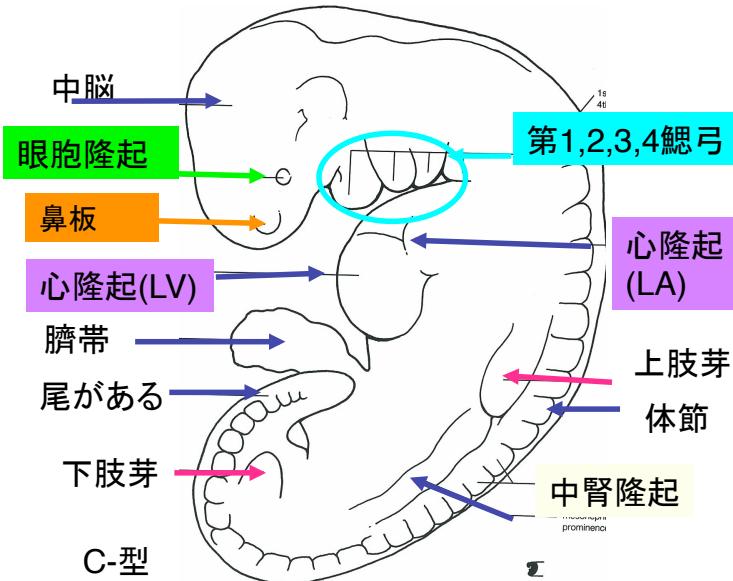




CS13

鼻板、眼胞隆起
(丘のような膨らみ)がある
鼻板が光って見える

耳胞が表面から完全に閉鎖
鰓弓が3個同じ幅でみられる

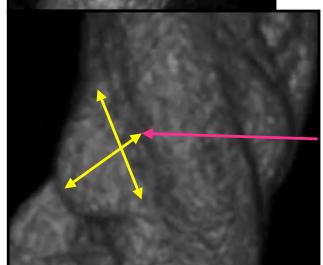


CS13

三叉神経節



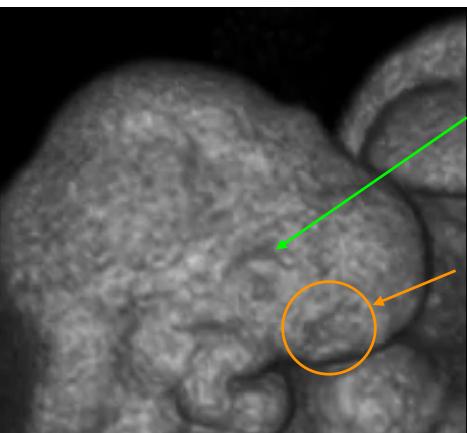
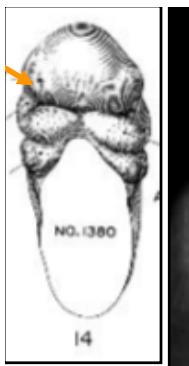
角度が鈍角
はっきり確認できる



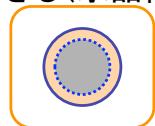
角度が直角に近い
上肢芽の長さより根
部方が太い



上肢芽は明確に区別できる。
下肢芽も現れ始める。
上肢芽>下肢芽の長さ



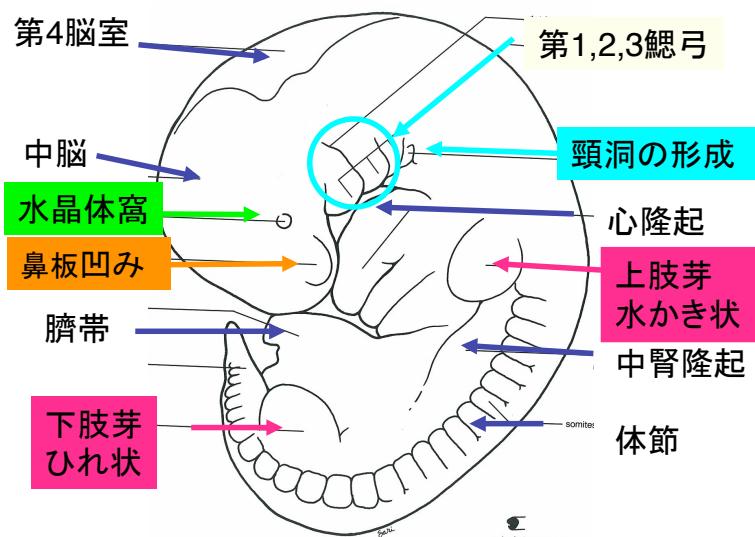
眼部に窪みが確認できる(水晶体窩)



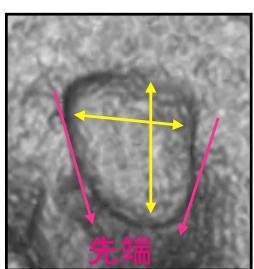
鼻板がやや
凹み位置が
明瞭

CS14

第2鰓弓が第3,4鰓弓を覆い始める(頸洞になる)
第2鰓弓の腹側部分が分化しつつある(見えない)

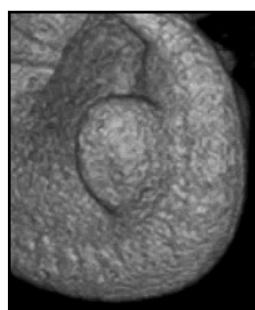


CS14

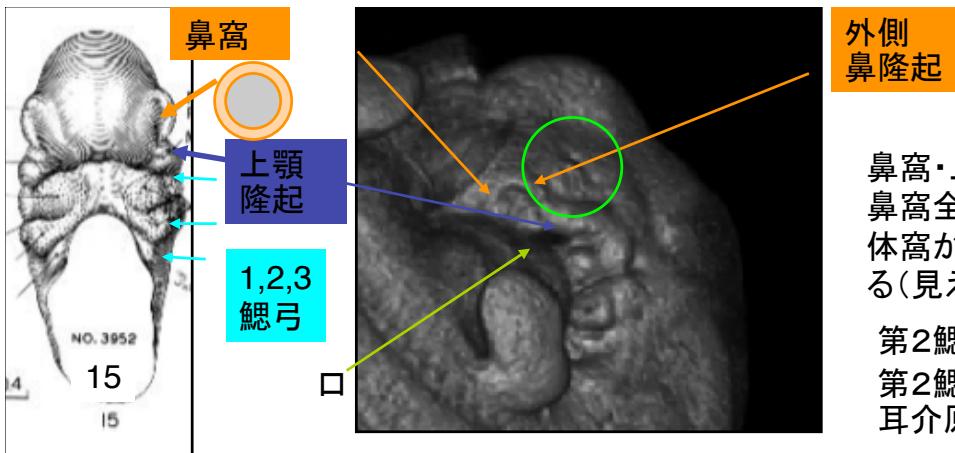


太さく長さ
先端に向かい細くなる
→CS15では手板に

上肢芽は腹側
に曲がる

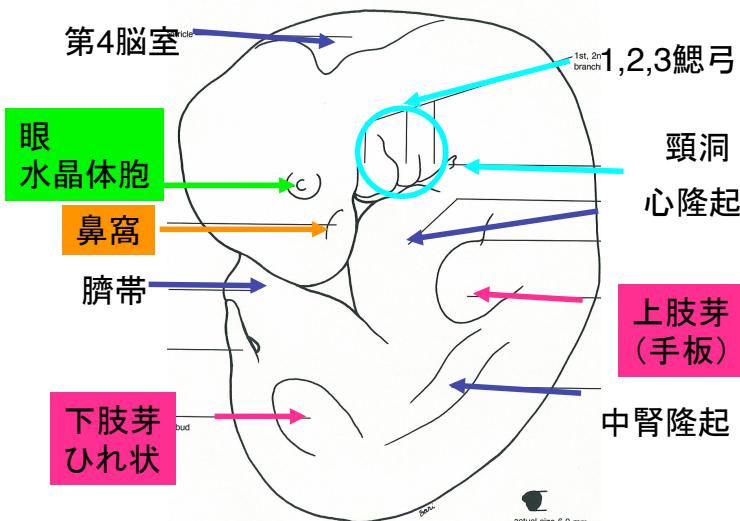


ひれ状

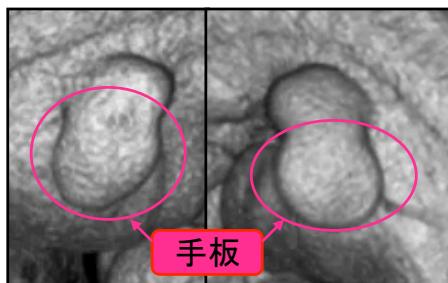


CS15

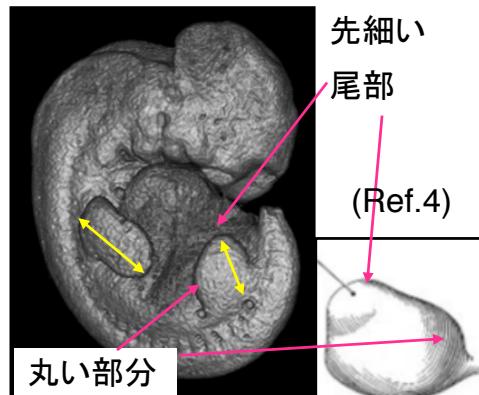
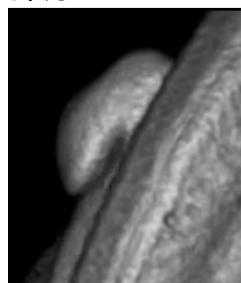
鼻窩・上顎隆起の発達
鼻窩全体の境界が分かる水晶体窩がとじ水晶体胞が形成される(見えない)
第2鰓弓が第3鰓弓を覆う
第2鰓弓の腹側部分が分化し耳介原基となる



CS15



末梢の手板と体幹側の部分に
細分される。
CS15の鑑別



丸い部分と尾部に分化し始める
→尾部は将来の足(くるぶし以下)
上肢芽の方が長い



第2鰓弓が第1鰓弓より目立つ
第3鰓弓は側面からみえない
耳介小丘が現れる

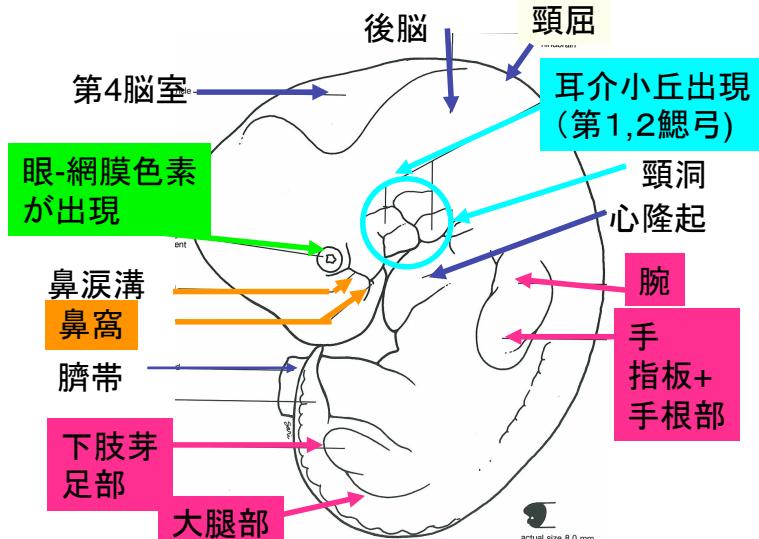


外側鼻隆起

CS16

鼻窩が腹側に移動
外側鼻隆起が発達
→鼻窩が側面から見
にくくなる

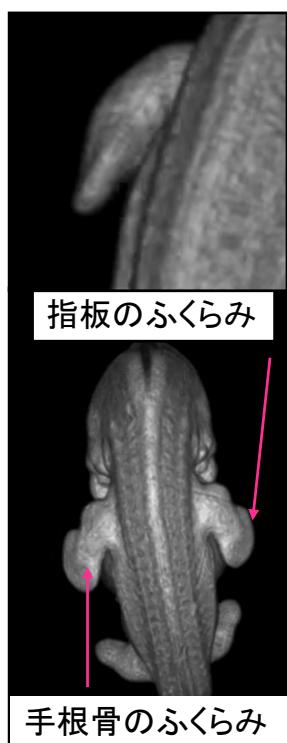
上顎隆起



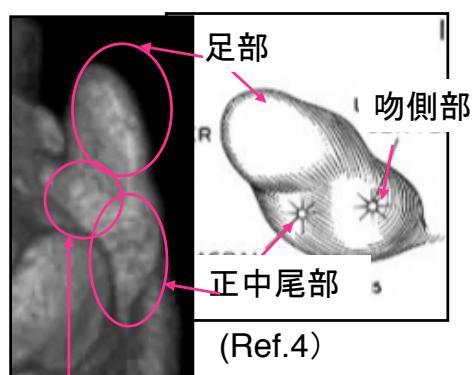
CS16



手板が、手根骨と
細い三日月状の突
縁(指板)へと分化
* 背面から見ると、
手根骨と指板のふ
くらみが確認しやす
い



手根骨のふくらみ

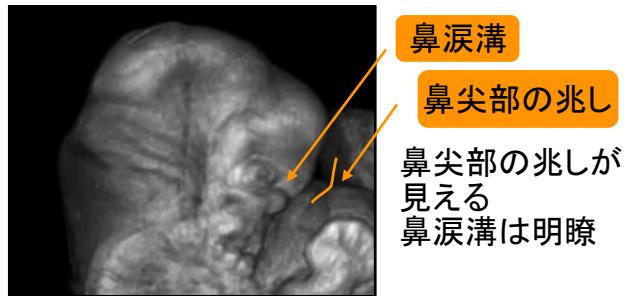


吻側部

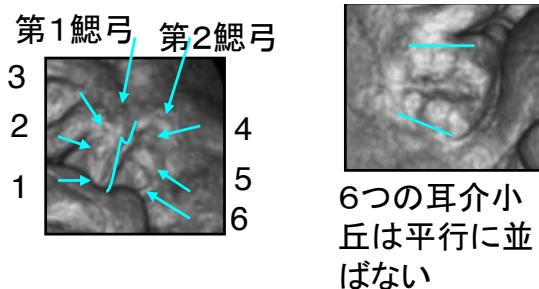
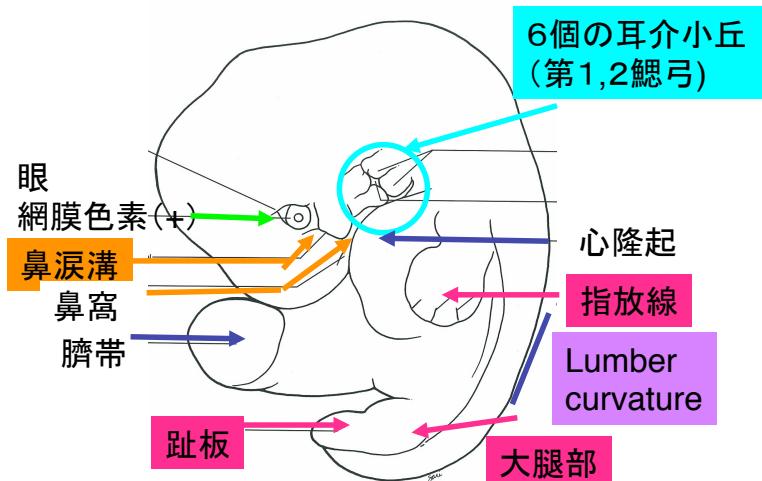
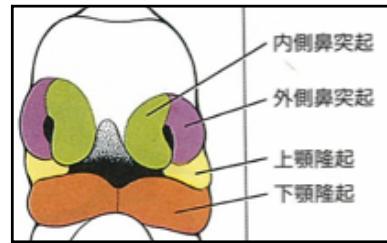
3つの成長中心が出現
①足部→足部になる
②正中尾部→脚部になる
③吻側部→大腿部になる
* 骨盤と大腿は区別できない

神経節や頸部の体節が表面から見みにくくなる

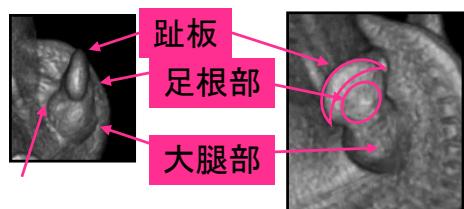
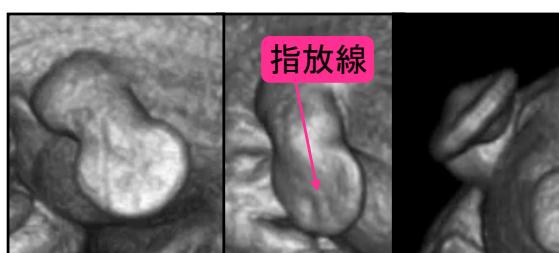
CS17



第3鰓弓やくぼみはみえない
体幹軸が直線状になりはじめる
Lumber curvatureがわずかにみられる
体節は腰仙部のみ表面から見える

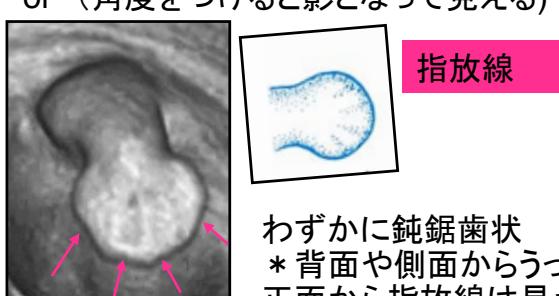


CS17



正中尾部

長さ・大きさが増大する。
丸い趾板を持ち、足根部と脚に区別できる。
* 下肢芽を上から見るとわかりやすい



わずかに鈍鋸歯状
* 背面や側面からうっすら見える
正面から指放線は見えない

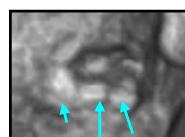
CS18



瞼の原基・瞼あり
瞼は眼球上にかぶって
いない(上下の溝が同時
に確認可能)

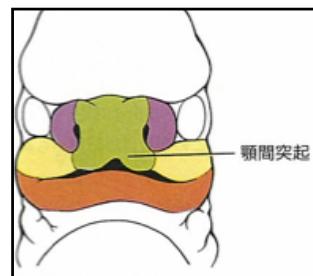


第1鰓溝が細長い楕円形

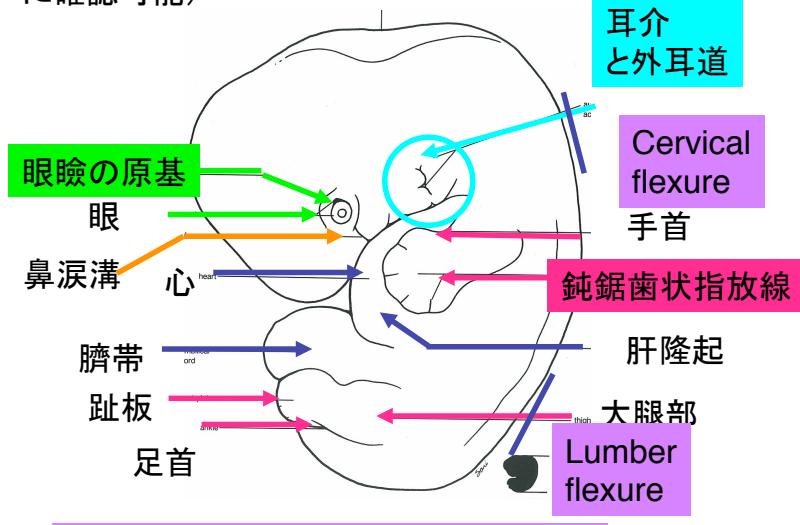


楕円形の幅が広がる
底面が丸みを帯びる
第2鰓弓側小丘は3個

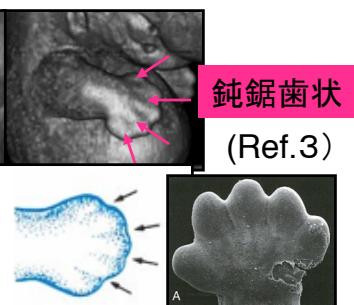
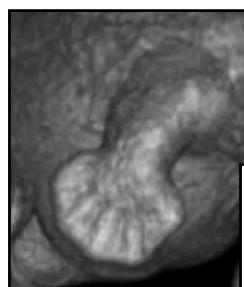
穴の底面は画像を回
転させると線状にと
がっている



耳介小丘が融合して耳介を形成
第1鰓弓上の小丘(2,3)が融合



CS18



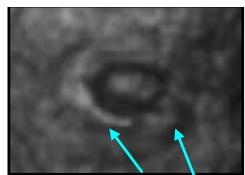
鈍鋸歯状
(Ref.3)

指放線がはっきりとし、ふちに切れ込
みがある。→鈍鋸歯状
正面から指放線が見える
* 後半では、肘領域があらわれる



趾放線

いくつかの標本で趾放線が確
認できる
→まだふちに切れ込みはなく、
鈍鋸歯状ではない。

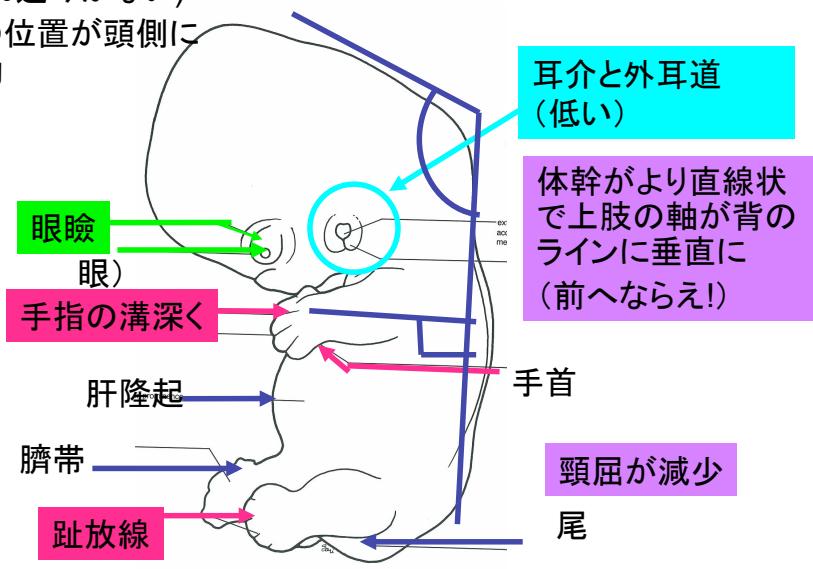


確認できる第2鰓弓側の小丘は2つ
穴の形は橢円形

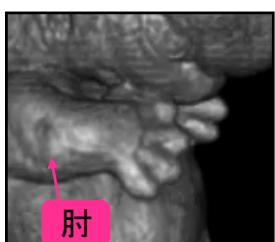
耳介小丘の融合が進み耳介を形成
(切れ込みがない)

耳の位置が頭側に移動

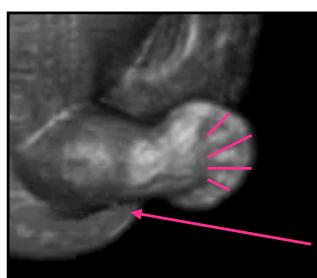
CS19



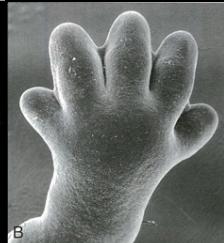
CS19



細部形態がわかる
肘領域が確認できる
手指の溝はより深くなる。

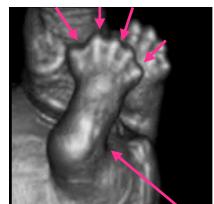
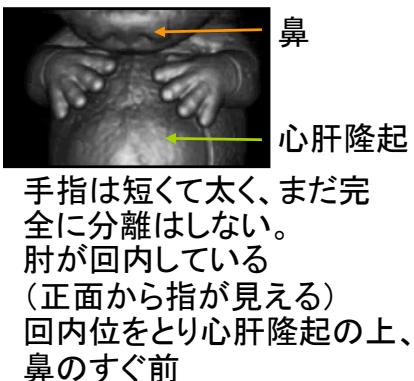


趾放線はより目立つ
→まだふちに切れ込みはなく
鈍鋸歯状ではない
細部形態がわかる
→膝がわかる、大腿・脚・足の部分がわかりやすくなる

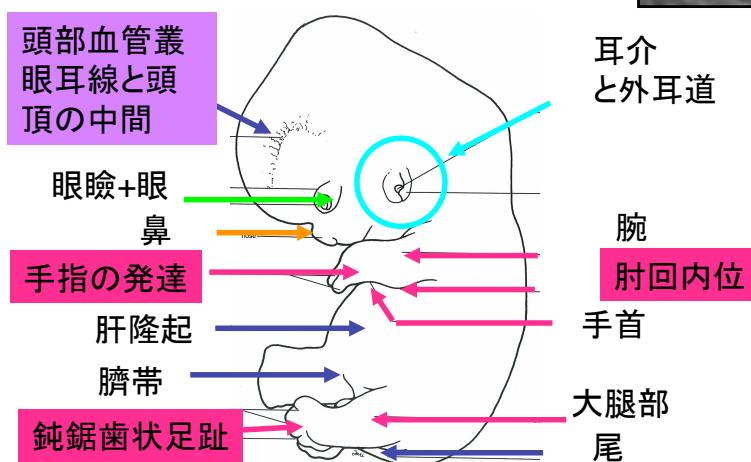


肘の回内はしていない (Ref.3)
(正面から指が見えない)

CS20



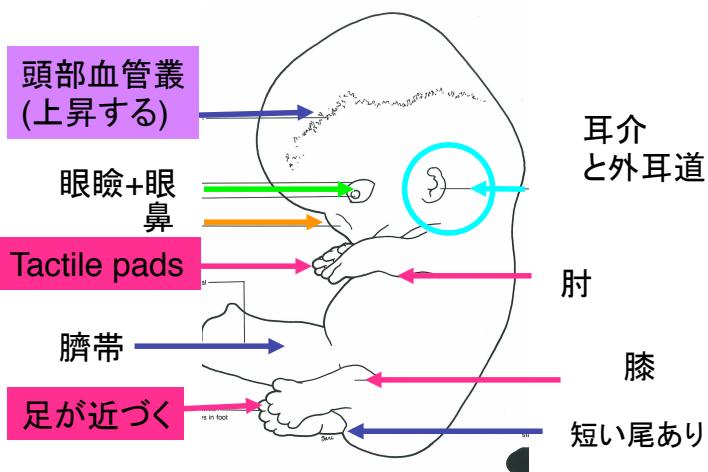
膝



手指が長い。腹側に向かって腕が伸び、わずかに手首で曲がる→心隆起の上
指先が触れる
指骨の末端がわずかにふくられる(tactile padsの兆し)



CS21



瞼が厚みを増し、眼球
上に被さっている



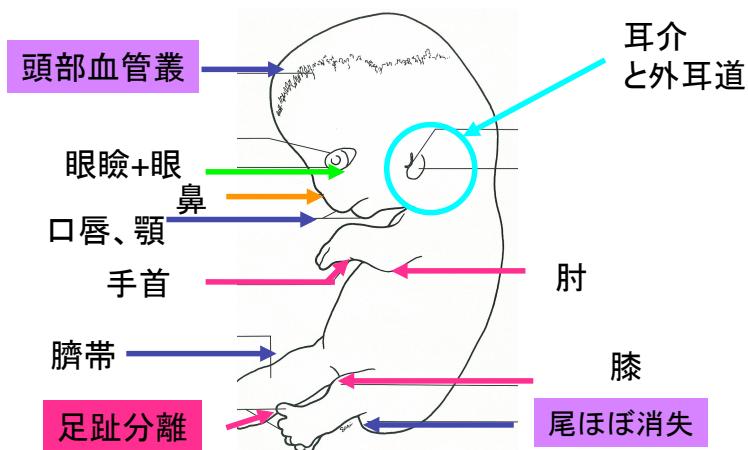
耳珠

対珠
耳介が顕著に発達し、耳珠と対珠
がより明確になる

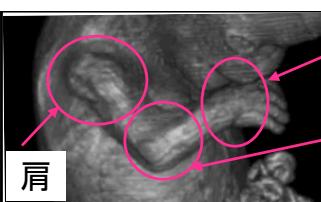


CS22

体の正面に向かって伸びる
→左右の手指が重なる



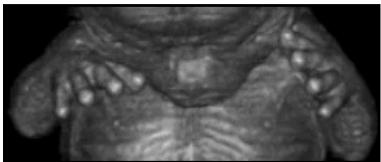
指がはっきり分かれれる



肩
肘
手首
上下肢とともに形態がより微細になる
→肩、肘、手首、足、脚・膝、大腿
上腕が肩の高さ以上に上昇する。



CS23



指先が上がり、離れる

眼瞼が融合し始める目尻・目頭の形成
(上下の瞼の融合)

